



御 船町震災復興計画方針は、地震の甚大な被害から復興に向かつて、力強く前進していくための、基本的な考え方を示すものです。

その復興計画策定に向けて、若者のアイデアを取り入れようと御船高校生との意見交換会が同校で開催されました。

生徒会執行部の18人が参加、4つの班に分かれ、町職員をファシリテーターとして話し合いが進められました。「私たちが夢を持って御船町に住み続けるには」をテーマに、高校生の視点で町の強み、弱みの洗い出し、強みを活かした取り組み、弱みを改善するための取り組みを考えました。

御船高校生と復興への意見交換会



未 来の御船町はどうあるべきか、生徒たちから「御船町の自然の写真や動画をSNS等でPRして、人を呼び込む」「これから御船に移住する人に、補助やサービスを充実させる」などの提案がありました。

生徒会長の松井康朗さん（2年）は、「自分たちの声が町に届けることができたら良かったです。これから、何事にも積極的に参加することが大事だと実感しました」と話しました。

地域のリーダーの存在が必要となる中、同時に、今の若者の力が必然不可欠となります。御船にずっと住み続けてもらうために、本町の復興に向けて、今走り出したばかりです。



みふねまちが大好きだから

全国大会への決意を語る



3年連続13回目の全国の舞台へ

第17回全国中学生創造ものづくり教育フェア
創造アイデアロボットコンテスト全国大会

御船中学校（吉見和洋校長・394人）ものづくり部の「百花繚乱」チームが12月10日、11日に東海大学付属熊本星翔高等学校で開催された、第18回創造アイデアロボットコンテスト九州地区中学生大会の応用部門で見事、優勝を勝ち取り、全国大会への切符を手に入れました。

「百花繚乱」チームが出場した応用部門は、競技テーマが「THE 綱引2」。1対1の対戦方式で、競技時間150秒の間に、メインロボットと自動制御で動くビックリドッキリメカを使用し、自陣のエリアにある11本の綱や棒を相手より先に引き込む競技。

部長の塚本博之君（3年）は、「部員一人一人が震災で元気がなかった。でもこのロボコンを頑張ることで、一人一人が、御船町が元気になるべし」との想いで挑んでいる今大会。全国大会に向けて、「応用部門では」昨年、一昨年の全国大会で、ベスト16で悔し涙を流した。今年は絶対優勝を勝ち取りたいです」と大会への決意を語りました。

全国大会は、1月21日と22日、東京都江東区のTOC有明で開催されます。13回目の全国の舞台に挑戦する「百花繚乱」。また、チャレンジ枠として、基礎



九州大会の決勝戦の様子

部門で「RED・IMPACT」。

応用部門で「MJH3159」も出場します。伝統校の意地を見せ、4度目の日本一を目指します。

※（ ）内は学年。敬称略。

「百花繚乱」

塚本 博之（3年）	藤原 怜音（3年）	園田 崇人（2年）	宮田 祐介（3年）	緒方 帆玖翔（3年）	榎田 怜威（3年）	藤田 薫（3年）	増本 拓斗（3年）	藤井 裕輝（1年）	高橋 太朗（1年）	岩本 真輝（1年）
-----------	-----------	-----------	-----------	------------	-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------

「RED・IMPACT」